

震災直後の対応



災害対策本部会議の様子

災害対策本部の動向

まったく予期していなかった大地震の発生、予想をはるかに超える甚大な被害の中、災害対策本部ではどのような初期対応をしたのか。

前夜

震災前日の3月11日夜、栄村消防団の幹部会議が行われました。これまで大きな災害に遭遇したことのない当村にあつては、災害対策用の備蓄品は顧みられない傾向にありましたが、最低限の備えは必要ということから、毛布・簡易トイレ・浄水器の3点、それぞれ見込み数量を購入したばかりでした。「近いうちに指定避難所にと

防災

配備する予定だ」と、この会議で報告しました。折しも東日本大震災のすさまじい津波災害を映像で見ると、災害現場で必要になるチェーンソーやジャッキ、救急用品も配備したいという意見もあり、計画的に揃えていくということになりました。まさか数時間後に、この備蓄品を使うことになるうとは思いませんでした。

「揺れ」というより「攪拌」という言葉がぴったりするような激しい地震が起こり、ガシャガシャという大音響の中で、洒落でなく、タンスがダンスして倒れました。

家族と隣組の安否確認をしてから役場に向かうと、「く」の字に折れ曲がった家屋、今にも滑り落ちそうに傾斜している家屋が見え、国道117号は亀裂や段差が未明の暗がりに浮かび上がり、大災害の予感に身震いが止まりませんでした。

役場は周囲が陥没し、室内は机が倒れ、書類が散乱し、機器類が悲鳴をあげていました。足の踏み場がない状態でしたが、何としても早く災害対策本部を設けなければなら

ないと一心から、数名の職員とともに1階の一室を片付けました。

災害対策本部の設置

非常参集により幹部職員が集まり、午前6時に災害対策本部が設置されました。まずは人命が心配されましたが、震災直後から消防団や各区の区長等の活躍により住民の安否確認がすで行われていて、人的被害は数名の軽微な負傷者のみという報告が対策本部を安堵させました。

2m近い残雪がありましたが、春らしい陽気が続いたおかげで殆どの家屋の屋根には雪はなく、また、深夜だったので火を使っていま

月岡地区への避難指示

大巻川上流の砂防堰堤が決壊し、土石流が月岡地区を襲う恐れがあるとして警戒に当たっていた地元消防団員から「大巻川の水位が下がっている」という無線連絡が消防団長に入り、川の流れが何かにせき止められ、鉄砲水の恐れがあ

るとして、8時50分に同地区に避難指示が発令されました。

秋山地区を除く全村避難指示

まずは情報収集が必要でしたが、道路が寸断されているのだろうか、地域の緊急対応に当たっているのだろうか（職員の多くは消防団員や区の役員を兼ねている）、なかなか職員が集まりませんでした。参集している10数名の職員に地区を割り振り、状況確認に向かつてもらいました。

一番被害が大きかった水内（森・青倉・横倉地区からは、道路亀裂・陥没、公民館倒壊、家屋の屈折・傾斜、雪崩による交通途絶、地区内道路崩落による通行不能、水道不通などの報告が入り、未曾有の大災害の様相が見えてきました。「この村はどうなってしまうのか」頻繁に起こる余震が不安を増幅させました。

対策本部の最も大きな、そして速やかに決断しなければならぬ課題は、全村に向けて避難勧告、あるいは避難指示を発令するか、否かでした。千曲川の氾濫等のごく一部地域の災害対応の経験はありましたが、全村に及ぶ災害は初

めてでした。昨年、一昨年と地震を想定した避難訓練を実施してきたので、住民の避難誘導は消防団員・区長の連携で、ある程度スムーズに運ぶことは予測できましたが、「どこに」が問題でした。しかし、各戸家屋の被害程度が把握できない状況下にあつては、せめて家屋の損壊程度が判明するまでは住民を帰すわけにはいかなという判断から、被害のほとんどなかった秋山地区を除く全村に避難指示を発令することになりました。午前11時でした。

避難完了

避難指示が出ても、小滝地区は村道が雪崩とともに土砂が崩落し、坪野地区は同じく村道が土砂等で閉ざされ、車での通行は不可でした。小滝地区住民の中には寝たきりの人や高齢で歩けない人もいたので空路が検討されましたが、長野県警のヘリコプターは東北に行っていて手が回らず、あちこち手配しようやく午後3時過ぎに京都から駆けつけたヘリコプターで救助されました。坪野地区住民は徒歩で崩落箇所を横断し、午後4時に避難をしました。



災害対策本部は未経験の災害対応に躊躇することが多く、方向性を示すことができない場面もありました。それでも、中越地震・中越沖地震の教訓から「緊急震災対策基本方針」及び「職員震災応急マニュアル」が策定されていたので、それに沿った形で職員は

職員の対応

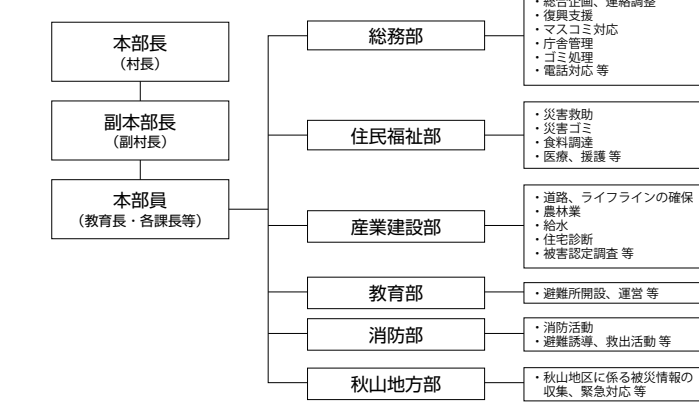
情報発信

震災の情報発信は総務課広報担当が当たるはずでしたが、ボランティア受け入れ窓口に従事することとなり、村のホームページ等の外部への情報発信は滞ってしまいました。

震災の情報発信は総務課広報担当が当たるはずでしたが、ボランティア受け入れ窓口に従事することとなり、村のホームページ等の外部への情報発信は滞ってしまいました。

震災の情報発信は総務課広報担当が当たるはずでしたが、ボランティア受け入れ窓口に従事することとなり、村のホームページ等の外部への情報発信は滞ってしまいました。

関係機関との連絡調整



災害対策本部は未経験の災害対応に躊躇することが多く、方向性を示すことができない場面もありました。それでも、中越地震・中越沖地震の教訓から「緊急震災対策基本方針」及び「職員震災応急マニュアル」が策定されていたので、それに沿った形で職員は

震災の情報発信は総務課広報担当が当たるはずでしたが、ボランティア受け入れ窓口に従事することとなり、村のホームページ等の外部への情報発信は滞ってしまいました。

震災の情報発信は総務課広報担当が当たるはずでしたが、ボランティア受け入れ窓口に従事することとなり、村のホームページ等の外部への情報発信は滞ってしまいました。

食料・物資の確保

震災当日から食料や毛布等の義援物資が届きましたが、当日はいなり寿司を1個ずつ分け合うところもあり、避難住民にひもじい思いをさせることになりました。

震災当日から食料や毛布等の義援物資が届きましたが、当日はいなり寿司を1個ずつ分け合うところもあり、避難住民にひもじい思いをさせることになりました。



1 車が倒れ、書類等が散乱した役場事務室
2 全国から寄せられた救援物資
3 職員との意思疎通を図るため、毎朝行われた庁内会議の様子
4 役場事務室の床で就寝する職員
5 震災直後に駆け付けていただいた日赤長野県支部の皆さん





4月25日		震災支援制度の集中受付窓口を開設（５月２日）
4月27日		震災義援金配分委員会を設置
4月28日		村議会 震災復興支援特別委員会を設置
4月29日		J R 飯山線 運転再開
5月10日	10時05分	森（中条）・青倉地区（北向）に避難指示（17世帯44人）
5月14日	17時30分	森（中条）・青倉地区（北向）に避難勧告（17世帯44人）
5月14日		県との共催による「栄村の復興を考える会」を開催
5月29日		仮設住宅（北野天満温泉）5戸（当初分）入居開始
6月18日		仮設住宅（栄村農村広場）35戸（当初分）入居開始
6月19日		仮設住宅（栄村農村広場）15戸（追加分）入居開始
6月30日		仮設住宅への入居等により、避難所を閉鎖
7月11日	9時00分	国道117号 大型車通行止め解除
7月12日	15時00分	中条川上流災害に伴う避難勧告を解除
7月14日		災害対策本部を廃止、震災復興本部に移行
8月11日		震災復興住宅の整備に向け、村・県・建築及び木材の関係団体で構成する「村営住宅整備検討会」を設置
10月16日		災害弔慰金支給審査委員会を開催、災害関連死3名を認定
10月17日		信州大学中山間地域プロジェクトとの共催によるシンポジウム
10月20日		「復旧・復興の現状と今後の課題」震災後7か月を経過して「」を開催
11月1日		栄村農村広場に仮設住宅の集会所が完成
12月23日		仮設住宅集会所に併設した仮設の食料品店舗「がんばろう栄村 横倉店」が開店
12月23日		村営住宅整備検討会より「震災復興村営住宅設置方針」の提案
12月23日		被災した宿泊施設「中条温泉トマトの国」がリニューアルオープン
12月23日		被災した「さかえ俱樂部スキー場」がリニューアルオープン
12月23日		平成24年
1月28日		J R 飯山線 森宮野原駅前に仮設の食料品店舗「がんばろう栄村 駅前店」が開店
1月29日		豪雪による震災の二次被害防止のため、豪雪対策本部を設置
2月15日		震災復興計画策定委員会を開催（９月6日・計6回開催）
3月31日		震災復興村営住宅整備計画を策定

地震発生から 1年間の 主な経緯



		平成23年
	3時59分	震度6強の地震観測
	4時31分	震度6弱の地震観測
	5時42分	震度6弱の地震観測
3月12日	6時00分	災害対策本部を設置
	8時50分	月岡地区に避難指示(50世帯139人)
	11時00分	秋山地区を除く村全域に避難指示(804世帯2,042人) 村内7箇所避難所を設営、1,519人が避難
		被災建物応急危険度判定調査を開始(3月19日)
3月13日		避難住民 1,787人
3月14日		避難住民の入浴サービスを開始
3月15日		避難住民の一時帰宅を許可(3月16日・18日・19日・20日)
3月18日		栄村復興支援機構「結い」が発足、ボランティアの受け入れを開始
3月21日	9時00分	森地区(中条)を除き避難指示を解除
3月22日	19時30分	青倉地区(北向)に避難勧告(11世帯26人)
3月24日		北信・東部小学校の卒業式及び閉校式 栄中学校の卒業式
		震災による一般廃棄物の集積場所(栄中学校グラウンド、旧中央分校付近)への搬入を開始(3月24日)
4月1日		震災義援金から被災世帯に震災見舞金(1世帯5万円)を配布
4月4日		建物の被害認定調査を開始
4月6日	9時00分	森地区(中条)に避難勧告(6世帯18人)
4月7日		東日本大震災と同等の支援措置等を国に要望
4月12日	7時26分	震度5弱の地震観測
4月14日		栄小学校の開校式及び入学式、栄中学校の入学式
4月19日		仮設住宅の建設着工
4月20日		中条川上流災害対策検討委員会を開催(平成24年3月26日・計5回開催) 罹災証明書の発行を開始 農地被害実態調査を開始 仮設住宅入居申込の受付を開始(3月27日)

復旧から復興…その中で

復興イベントの開催

震災からの復興に向けて、栄村を応援しようと様々な方の御厚意により多くのイベントが開催され、参加された村民の皆さんに勇気と元気を与えていただきました。



【復興祈念花火大会】平成23年8月12日、県内の花火工場や近隣市町村の企業など、多くの方の寄付により集まった花火が500発、約40分間にわたり次々と打ち上げられました。



【復興イベント】地震から3か月の節目の平成23年6月12日に、落語家の立川談慶さんによる落語、信濃町出身の歌手の北村優希さんによるライブ、十日町市の飲食店組合の皆さんによる炊き出しなど盛りだくさんの内容のイベントが行われました。



【清水アキラものまねショー】平成23年7月3日に山ノ内町出身のタレント清水アキラさんご厚意で開催され、数々のものまねや歌を披露していただきました。



【無茶フェス2011年 in 栄村】平成23年10月16日、信州プロレスの他、清水まなぶさんや柴村佳奈さんなどのコンサートにラーメン店の出店、さらにメインのプロレスでは、大仁田厚さんと井上京子さんがリングに上がり大迫力の試合が行われました。